

令和4年1月12日

岩沼市議会議長 飯塚悦男 殿

教育民生常任委員会
委員長 高橋光孝

委員会調査報告書

本委員会の閉会中の継続調査事件について、会議規則第101条の規定に基づき別紙のとおり報告します。

記

1. 調査事件 (1) 彦根市子ども・若者プランについて
(2) 島田市こども館について
(3) こども発達支援センター「ふわり」について
2. 調査の経過 (1) 令和3年12月7日(火) ・委員会開催
調査事件の事前研修
(2) 令和3年12月21日(火) ・行政調査
～12月22日(水)
(3) 令和4年1月6日(木) ・報告書案まとめ
3. 調査内容 別紙のとおり
4. 調査委員 委員長 高橋光孝
副委員長 大村晃一
委員 佐藤一郎
委員 須藤功
委員 高梨明美
委員 渡辺ふさ子

調査内容

I	調査地	滋賀県彦根市 人口111,922人 面積196.87km ² R3.11.30現在
	調査月日	令和3年12月21日(火)
	調査事件	彦根市子ども・若者プランについて
	概要	<p><u>彦根市子ども・若者プランについて</u></p> <p>(1) 第1期プランの取組と課題について</p> <p>「子育てひこねゆめプラン」(平成11年度～16年度)、「子どもきらめき未来プラン」(平成17年度～20年度)を経て、認定こども園制度改善、認定こども園・幼稚園・保育園等への共通給付、地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実、子ども・子育て会議の設置などを中心とした「子ども・子育て新制度」(平成27年4月～)の本格始動と並行して、「子ども・若者プラン(第1期)」(平成27年度～31年度)年を策定。</p> <p>「子ども・若者の健やかな育ちに向けたまちづくり」、「子ども・若者の育ちに応じた支援」、「みんなが共に育つための子ども・若者への支援」、「子ども・若者と子育て家庭に優しいまちづくり」を基本視点とした施策が展開された。また、4つの基本視点における各項目の評価も行った。</p> <p>課題としては、子ども・若者を取り巻く環境の変化により、少子化の進行(平成22年～令和2年までに出生率3割減)・核家族化・単身世代の進展・地域のつながりの希薄化があり、家庭や地域での子育て力の低下、ニート、ひきこもり、いじめや不登校、子どもの貧困などがあり、子どもから若者の視点に立った切れ目ない支援や、子どもや若者、子育て家庭が安心安全に暮らせる地域づくり、まちづくりが必要。</p> <p>(2) 第2期プランの概要について</p> <p>第1期プランと平成29年3月に策定した「子どもの貧困対策計画」をまとめ、彦根市教育大綱などの関連計画と連携し、第1期の4つの基本視点に加え、「すべての子どもが希望をもって成長できるまちづくり」を基本目標に加えた。様々な関係機関とネットワークを構築し「彦根市子ども・若者支援地域協議会」を立ち上げ一体的な取組を行っている。</p> <p>(3) 不登校への支援について</p> <p>彦根市子ども・若者総合相談センターを設け、不登校に限らず社会生活を円滑に営む上で困難を有する子ども・若者支援のための総合相談、子どもの居場所づくりの整備やサロン活動を通し、教育委員会などと連携して取り組んでいる。</p> <p>(4) ひきこもりへの支援について</p>

<p style="text-align: center;">概 要</p>	<p>彦根市子ども・若者総合相談センターを設け、「サロンなないろ」を開設。「サロンなないろ」では、特にやることを強制することはなく、自由に過ごしていい場所として居場所づくりを行い、他者との関わりや社会との交わりを増やすことで引きこもり脱却に成果を上げている。また、「生きづらさを感じるアンケート」として当事者のアンケートを実施。アウトリーチを望まない声や「働いてはいるものの生きづらさを感じる」といった声も多く見られ、当事者ニーズがなかなかつかめないことも課題として浮き彫りとなっている。</p> <p>(5) 彦根市子どもの貧困対策計画(子どもの貧困問題への対応)について</p> <p>生活困難世帯、現在の暮らしの状況、塾・習い事、夕食、住まいの状況、家庭にない物品などの項目を調査した子どもの生活に関するアンケートを実施し、貧困世帯・貧困状況の分析を行った。子ども・若者プラン第2期には、基本目標Vとして「子どもたちの学びと育ちをみんなで応援する」ことをうたい、多様な分野から子ども食堂やフリースペースなどの居場所づくり、支援体制の整備、リユースやフードバンクなどの仕組みの構築や情報の提供、ネットワークづくりなどを地域や社会全体の一体的な取組として行っている。</p> <p>(6) 今後の課題について</p> <p>社会環境の変化に伴い、虐待・不登校・ひきこもり・貧困など様々な問題が上がっているが、その実態は把握しづらい。子どもや若者を取り巻く環境の変化に応じて、子どもや子育て中の保護者、若者の気持ちに寄り添い、支えることができるネットワークの構築の必要があり、成長に応じた切れ目のない支援、個々に応じた必要な支援、子どもや若者、子育て家庭などに配慮した環境づくりが必要となっている。</p>
<p style="text-align: center;">委員会の まとめ</p>	<p>彦根市の子ども・若者支援は、宮城県内ではまだ実績がない内閣府が努力義務と掲げる「子ども・若者支援地域協議会」を立ち上げるなど、虐待・不登校・ひきこもり・貧困など、実態が把握しづらい問題に対して、子育てする家庭、義務教育期間が終了した子どもたちにも、切れ目のない一体的な支援を行っており、縦割り行政ではなく、関係機関や関係部署と連携を取り合って取り組んでいる。</p> <p>また、引きこもり当事者に対するアンケート、複数項目にわたる貧困に対するアンケートなど一方的な支援ではなく、当事者に寄り添った、当事者にとって必要な支援を地域全体で行っており、点や線ではない面として支援に取り組んでいる。今後は、彦根市のような取組をしていくことが必要となるのではないかと感じられた。そして何より達成率を上げるために低い目</p>

	<p>標を掲げるのではなく、高い目標値を定め、達成できなかった項目をしっかり見直し、支援の充実に向けて課題に向き合う姿勢には学ぶべき点がある。</p> <p>岩沼市においても「住み続けたいまち」と評価されるように、より一層、妊娠や出産、幼児期、義務教育期間、義務教育終了後まで切れ目なく、不登校やひきこもり、貧困など個々の抱える実態に応じた支援体制を整えていく必要があると考える。</p>
--	--

II	調査地	<p>静岡県島田市</p> <p>人口97,085人 面積315.70km² R3.11.30現在</p>
	調査月日	令和3年12月22日(水)
	調査事件	<p>島田市こども館について</p> <p>こども発達支援センター「ふわり」について</p>
	概要	<p><u>島田市こども館について</u></p> <p>(1) 運営内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成24年8月5日に開館。開館時間は午前10時から午後7時まで。 ・ 平成27年度から5年間の指定管理者制度を導入。 ・ 4つの機能を有し、親子でも楽しめる屋内施設として、児童館の移転・設置先となった施設の4階に設置されている。1階はスーパーが店舗として入り、2階・3階には図書館を兼ね備え、5階以降はマンションというビルの中に設置されている。 ・ プレイルーム「ぼるね」 有料の遊具エリアで2時間ごとの入替制(1日4時間)を行っており、「動の遊び」と「静の遊び」に分かれたエリアで乳幼児親子から小学生まで様々な遊び場を提供している。利用料金は未就学児は無料(保護者同伴)、小学生は100円、市内大人は100円、市外大人は200円。 ・ 活動室 0歳から18歳まで(乳幼児については保護者同伴)が自由に遊べる児童館機能を持ち、児童や乳幼児親子を対象にした各種行事、創作教室等を開催し、子どもの居場所づくりの場として活用。 ・ 一時託児室 生後2カ月から小学校未就学児までの乳幼児が対象。 ・ ファミリーサポートセンター事務局 子育ての援助を受けたい会員(委託会員)と援助をしたい会員(受託会員)のコーディネート機能を備えている。 <p>(2) 利用状況について</p>

	<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開館年度の平成 24 年度は合計利用者数 116, 114 人だったのに対し、平成 30 年度は 112, 859 人と、平成 25 年度の 146, 549 人をピークに利用者が年々減少傾向にある。 令和元年度、令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染予防対策で時短や人数制限の影響もあり、令和 2 年度は 36, 932 人と激減した。 ・ 利用者の減少傾向の理由の 1 つとしては、駅前ということもあり近隣の市町からの利用者も多かったが、他市町にも同様の施設ができた影響が大きい。 ・ 利用者の減少傾向は見られるが、依然として多くの市内、市外の利用者に活用され、親子の居場所づくりや子育てサポートに大いに貢献している。 <p>(3) 事業の効果及び課題点について</p> <p><効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島田駅に近いことから、市外からの利用者が全体の 7 割を占めている。 ・ 利用者からは、子育て支援にいい評価をいただいている。 ・ 子育て世代にとっては、天候に左右されず、子どもと自由に遊べる施設で、利用料金も安価であることから、利用価値が高い。 <p><課題点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化の影響もあるが、近隣の市町村にも同じような施設ができたため年々利用者が減少している。 ・ 隣接する駐車場が店舗・図書館と共用のため、土日・夏休みなどは満車となる。 ・ 駅が近いことから、島田市以外の利用者が 7 割と多く、市内の利用者を増やす取組が必要。 <p>(4) プレイルーム「ぼるね」について（施設見学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス発生以前から、2 時間ごとの入替えの合間に掃除を徹底し、衛生面に気を付けている。 ・ エリアごとに職員を配置しており、安全面に努めている。 ・ 島田市子育て応援自動販売機として館内の出入口付近に設置されている飲料の自動販売機は、売上の一部が島田市の子育て支援に活かされている。 ・ 乳幼児コーナ、想像力をはぐくむおもちゃごっこ遊びができる「静の遊び場」（ギアのかべ、マグネットボード、イメージネーション・プレイグラウンド、他ではできないダイナミックな動きができる「動の遊び場」（クライミングウォール、ボールプール、エアトラック、サイバーホイール、エアキャッスル）などの各種遊び場を設置。
--	-----------	--

概 要	<p>こども発達支援センター「ふわり」について</p> <p>(1) 運営内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 20 年度に開設し、園庭・廊下でつながって行き来できる民間保育園（大津保育園）が隣接されており、発達の気になる子どもたちと保育園の子どもたちの日常的な交流を図り、充実した支援を目指している。 ・ 心身の発達などが気になる就学前の子どもたちに対して、個々に合わせた相談や発達支援等に関する支援を行っている。 <p>【児童発達支援事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期通園（月～金、9時～16時） 心身の発達等に心配のある就学前の子どもに、個々に合わせた療育や集団参加を通して、一人ひとりの発達を支援している。 ・ 親子通園（週1～2回、9時～11時） 心身の成長や発達に心配がある就園前の子どもを対象に、親子でいろいろな遊び・活動を経験するなかで、親子関係を深め、成長を促している。 ・ 並行通園（グループごと週1回、14時～16時） ・ 1日並行通園（週1回、9時～16時） 幼稚園・保育園・こども園で「友だちとうまく遊べない」「自分の力を発揮できない」「一斉活動にのれない」等の気になる子を支援している。 <p>【障害児相談支援事業】</p> <p>福祉サービス等を利用する方で、市内に在住する18歳以下の児童が対象。障害児通所支援（児童発達支援事業、放課後等デイサービス等）、障害福祉サービス等を利用するために、利用者（児童）や保護者と相談支援専門員が面談した上で「サービス等利用計画」を作成する。また、利用計画が適切であるか、モニタリング期間ごとにサービスの利用状況を検証し、見直しも行う。</p> <p>(2) 相談、フォローアップ体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 診断名がある児童、療育手帳、身体障害者手帳を所持している手帳ばかりではなく、診断や相談等で発達が気になる児童や保護者の希望をアセスメントし個別の課題支援方法を行っている。 ・ 3ヶ月のモニタリング、6か月の中間評価、1年の終了時評価を行い、転園や継続などきめ細やかな支援を行っている。 ・ 3ヶ月、1歳半、3歳等多くの検診における保健師からの助言、心理師職員による発達状態、社会性、認知などの
-----	---

	<p>概要</p>	<p>心理検査、重度心身障害への医療支援のための看護師2名の配置など、気になる子どもに関する様々な相談や発達支援、育児に関する支援を、保育士・指導員・看護師・公認心理師等の多種多様な22名の職員で行っている。</p> <p>(3) 事業の効果及び課題点について</p> <p><効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の有無に不安を感じる子どもがいる家庭にとっては相談内容に応じて通園できる場所であり、転園希望先があれば転園も実現しているなど、子どもにとっても保護者にとっても、多くの人と関わり、サポートを受けることで楽しい毎日をつくることのできる環境の場となっている。 <p><課題点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士の確保や、総合医療病院からの看護師の派遣状況など、安定した人材確保の維持に課題が残る。 ・ 心身の成長や発達に心配のある子どもであっても、親があまり意識を持たない場合や、認めたがらない心情もあり、早期の適切な支援を行えないこともある。 ・ 新型コロナウイルスの影響で職員もマスクを付けているため、顔の表情を見せながら子供たちに接するのが難しい。本来は、口元など顔の表情を認識できるように接したい。
	<p>委員会のまとめ</p>	<p>島田市こども館においては、駅が近いことや同じ建物の中に、児童館機能を有する施設や民間のスーパーマーケットが併設されていることから、利便性も良く感じ、悪天候時などでも、子どもたちが元気に走り回れる空間を行政が確保して運営していることに、子育てに対する力の入れ具合が見て取れた。</p> <p>また、こども発達支援センターにおいては、民間保育園と併設し子ども同士の交流を行いながら、行政が主導で多種多様な専門職の方々を職員として配置した上で、関係機関と連携をしながら発達に不安がある子どもや家族が楽しく通える場所づくりを行っていた。</p> <p>島田市こども館も、こども発達支援センターも行政が主体で行っている施設に他の機能を備えた民間施設等が併設した形で運営されていることで、本来の利用価値に付加価値が生まれ、利用者や利用者の家族にとってメリットが大きいものとなっている。</p> <p>岩沼市においても、今以上に子育て世代が住みやすい街となるための1つの手法として、子どもたちが屋内の広い場所で遊具などを用いて遊べる場所や発達に不安がある子どもや家族が楽しく通える居場所など、様々な状況に対応した子どもたちの居場所づくりを、行政が主導となって運営することを検討するべきと考える。</p>